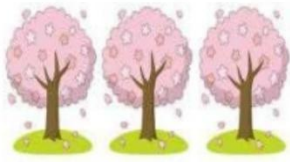


高取小だより

令和8年1月23日



三本桜

第39号

ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子
1月の目標：病気に負けない強い体をつくろう

縄跳びに挑戦しています

子どもたちが体力・運動能力を伸ばし高めていくために、体育の授業を中心に縄跳びに取り組んでいます。

「体を上手く動かす能力＝調整力」は、脳の発達と関連していて、5歳から11歳までが一番磨かれる時期＝ゴールデンエイジと言われます。ちょうど小学生時代と重なるこの時期に、両手両足を使い、前と後ろ両方の跳び方があり、前後それぞれにあや跳び、交差跳び、二重跳び、はやぶさ跳び……。多彩な技と動きのある縄跳びは、調整力を高め伸ばすのに最適な運動の1つです。子どもたちは、体育の授業、休み時間、いろいろな場所で友達と競い合い、教え合い、励まし合って、縄跳びに取り組んでいます。

「見て！見て！」とリクエストがありましたら、ぜひお子さんの技を見て、上達やがんばりをほめてあげてください。



発達段階に応じて子どもに寄り添う

子どもは年齢によって「理解できること」「できること」「困りやすいこと」が大きく異なります。そのため、年齢に合った関わり方・支援方法・環境を整えることが「発達段階に寄り添う」ということです。

ポイントは以下の3つでしょうか。

- ・その年齢で自然な姿（発達特性）を正しく理解すること
- ・子どもの行動背景を読み取り、否定ではなく共感から入ること
- ・その子が一歩進める手助けをすること（スキップフォールディング）

（裏面へ）

【小学校低学年（１～２年）】の特徴と寄り添いの具体例

◆特徴

まだまだ注意の持続が短い、感情のコントロールは未発達、「正しい／間違い」に敏感、大人の承認を求める時期

◆寄り添いの具体例

- ・ 集中が持続しない子 → 必要に応じた工夫をする、タイマーで「あと２分頑張ろう」と見通しをつくる、手元に「触れるグッズ」を置く（集中を助ける）、プリントを分割して負担を小さくする、子どもができる範囲に合わせて環境を調整する。
- ・ 納得できないと泣いてしまう子 → 感情の育ちを支える、「悔しいんだね。そう感じるのは大切なことだよ。一息ついたらどうしたいか一緒に考えよう」、感情を受け止めることで、次に進む力が育つ。

【小学校中学年（３～４年）】の発達と寄り添い

◆特徴

自分の力を試したい、友だち関係が深まりがトラブルも複雑になる、思春期の入り口で感情が不安定な時期

◆寄り添いの具体例

- ・ グループ活動が苦手な子 → 役割の調整で成功体験をつくる、役割を細かく分け「できること」を担当してもらう、発達段階に合わせて「成功の仕方」を変える。

【小学校高学年（５～６年）】の発達と寄り添い

◆特徴

自我が強くなり大人に反発する、複雑な感情や人間関係の悩みが増える、理論的に考えられるようになるが、感情は未熟

◆寄り添いの具体例

- ・ 注意すると反発してしまう子 → 距離感をもって「対等な立場」に寄り添う、「どうしてこうなったと思う？」と内省を促す、感情が落ち着いてから短く具体的に伝える、プライドを傷つけない言い方を工夫する
- ・ 思春期特有の不安・友達関係の揺らぎ → 「今悩んでいることは、成長している証拠だよ。話してもいいし、話したくないなら手紙でもいいよ」、自立に向けたサポート（選択肢を与える）が大切

子どもの発達段階に応じて、①その時期に「できなくて当たり前」を理解する②行動ではなく感情に寄り添う③その子の「少し先」をサポートする（スキヤフォールディング）、この３つを意識して学校と家庭が連携しながら、子どもたちに寄り添っていけるといいですね。